

平成28年3月8日

岡谷市教育委員会

教育委員長 草間吉幸 様

岡谷市社会教育委員の会議

会長 濱 道 夫

## 意見書

岡谷市社会教育委員の会議は、岡谷市教育委員会に対して「社会教育行政のより一層の推進を図る」ため以下のとおり意見具申いたします。

なお検討の経過及び委員の活動実績等については、別添の参考資料をご覧ください。

### 記

#### (はじめに)

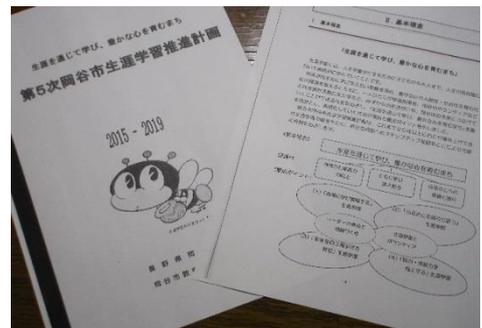
平成27年度は、第5次岡谷市生涯学習推進計画の初年度として、これまで築き上げてきた社会教育の礎を基に、将来を見据えてより発展的に生涯学習の推進を図るスタートの年です。

計画では、「地域力と家庭力の向上」「ともに学び支えあう」「ふるさとへの愛着と誇り」を3つの指針とし、重点ポイントとして「地域に学び貢献する生涯学習」、「ふるさとを誇りに思う生涯学習」、「未来を担う青少年を育む生涯学習」、「親力、家庭力を向上する生涯学習」の4点を掲げています。

このなかで、私たち社会教育委員は、「地域の学び」と「家庭の学び」に着目し、具体的に「家庭や地域でどのように学びを進めていくのか」について話し合いを進めてきました。

議論の始めには、社会教育や生涯学習を取り巻く状況について生涯学習課各担当より事業の説明を受け、スポーツを含む行政の取り組みについて学びました。本年度は社会教育委員の半数が新任となり、学校教育を含む岡谷市の教育行政全般から、青少年・文化財・美術館・図書館・スポーツまで幅広い分野の説明を受け委員の気持ちも引き締まりました。

また、社会教育委員に与えられた使命や果たすべき職務についても委員一人



第5次岡谷市生涯学習推進計画

ひとりが自問自答してきました。かつて国や県が関与し制度的に教育を進めてきた「社会教育」の時代から、一人ひとりの個人が自ら学び続ける「生涯学習」の時代へ変化（注1）するなかで、今後「各世代にわたる自発的な生涯学習」をどのように推進するかが大きなテーマとなっています。

（注1：社会教育と生涯学習の定義や違いについては諸説あります。）

### （生涯学習を取り巻く社会情勢や国・県の動き）

近年私たちの生活を取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢社会や高度情報化・国際化の進展、ライフスタイルの多様化など急激な状況の変化は、物事の見方、考え方や価値観の違いを生み世代間のギャップが生じています。

また、今年度は国が提唱する「地方創生」に基づき、平成31年度までの5年間の期間とする「岡谷市ひと・まち・しごと創生総合戦略」が策定されました。

45年後の平成72年度の人口を4万人台とする人口ビジョンをもとに、「輝く子どもの育成」を基本戦略のひとつとし、子育て支援や学校教育の充実と青少年の健全育成を戦略の方向性としています。社会教育委員の会議では、地域内でのリーダーや指導者を育てる「人づくり」が重要との意見が出されました。

また、長野県では、青少年の健全育成を進めるための条例制定の議論がされています。全国唯一条例をもたない長野県は、地域や家庭で子どもを見守り育てる独自の取り組みが伝統的に続けられてきています。さらに、長野県は信州型コミュニティスクールを推奨し、地域住民が学校運営に参画する仕組みづくりを拡げています。こうした児童や生徒との関わりは「地域の学び」の重要な位置づけとなります。

一方、教育行政においても大きく制度が改正されています。教育委員会制度の抜本的な改革に向けて法律が改正され、市長部局と教育委員会とが対等の立場で、「教育の条件整備など重点的に構ずるべき施策」等について話し合う「岡谷市総合教育会議」が平成27年4月から開催されています。

また、平成27年12月には新たに「岡谷市教育大綱」が策定され、「自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり」を教育理念とし、生涯学習分野の



岡谷市教育大綱

スローガンとして「歴史と文化を礎に、自ら学び続け、地域で輝くひとづくり」を掲げています。生涯学習の重点として「地域に学び貢献する生涯学習」「ふるさとを誇りに思う生涯学習」「未来を担う青少年を育む生涯学習」「親力・家庭力が向上する生涯学習」をあげています。

こうした経過を踏まえ岡谷市社会教育委員の会議として、「地域の学び」と「家庭の学び」を平成27年度のテーマとし、以下の意見と提言をまとめました。

## 【平成27年度 意見・提言のまとめ】

### 【地域の学び】

- 1 地域と学校の連携
  - 2 行政区との総合連携
- 提言①：地域住民の学校運営への参画  
提言②：行政区における各種団体活動の連携・協力  
提言③：連絡協議会組織の充実と活性化

### 【家庭の学び】

- 1 若い親の学びのサポート
  - 2 情報ツールの積極的活用
- 提言①：地域子（己）育てミニ集会等の活性化  
提言②：学校地区懇談会・学級懇談会の活性化  
提言③：情報ツールの積極的活用

### 【その他】

- 1 公民館・学習活動の一体的推進
- 2 人権教育の推進
- 3 子育て憲章の啓発と実践
- 4 人材の育成とボランティア

# 《 第1 地域の学び 》

地域の学びでは、これまで長年にわたり培ってきた岡谷市独自の行政の仕組みや社会教育の歴史を踏まえ、将来の岡谷市を見据えた取り組みを「地域と学校の連携」と「行政区との総合連携」の2項目にまとめました。

## 1 地域と学校の連携

岡谷市内には8小学校と4中学校があり、それぞれに特色ある学校づくりが進められてきました。

特に、生涯学習の一環として平成23年度から全小学校で実施されている「岡谷市放課後子どもの居場所づくり事業」は、多くの地域住民が放課後の事業にボランティアで参画することで、子どもたちの健全育成を進めるとともに地域住民の社会貢献の一例として大きな成果を上げています。



放課後子どもの居場所づくり事業

このほか、登下校時の安全見守りやPTA活動など住民の学校参加の機会は増えてきていますが、さらに主体的に学校側と住民側の双方が学校運営も含めて連携、協力することが望まれます。

長野県では「信州型コミュニティスクール」として、地域住民が学校運営に参画し支援し評価する仕組みづくりを進めています。岡谷市においても、市内小中学校でコミュニティスクールの検討が進められていますが、地域と学校が一体となり、各通学区の特徴を生かし、世代を超えて機能し続ける仕組みが必要です。

また、学校側から地域に積極的に向くことも大切です。総合学習の時間が減り、子どもたちが地域で学ぶ機会は以前に比べて少なくなりましたが、地域の育成会やPTAの行事などに児童や生徒が積極的に参加することは地域の人材の育成にもつながるものと考えます。

さらに、今年度は岡谷小学校の統合が進められるなかで、児童や教職員、PTA、卒業生など多くの関係者から母校への強い思いが様々な形で表現

されました。故郷に誇りをもち自分の育った地域への愛着を育むことは地域で学び続ける第一歩となります。

### 【地域の学び 提言①】地域住民の学校運営への参画

岡谷市独自の「放課後子どもの居場所づくり事業」の更なる発展に向けて、学校区ごと地域の実情に合わせた無理のない組織や形態で岡谷版コミュニティスクールを推進し、多くの地域住民が生活や仕事で培ったスキルやノウハウを学校を通じて地域に還元し、次の世代へ伝承する仕組みづくりを提言します。

## 2 行政区との総合連携

岡谷市では、21の行政区が身近な生活の自治組織として伝統的に重要な役割を果たしています。各行政区は、区長等の役員や区議会、関係団体などによって運営されその実態は地区の状況により様々で、市内いたる所で地域の特色を生かした活動が展開されています。



西堀区の各種団体等

生涯学習の推進でも行政区は大きな役割を果たしており、社会教育委員の会議では、西堀区の先進事例を中心に意見を交わしました。

西堀区では、育成会や婦人会、保健委員会、壮年会などの各種団体が、それぞれの事業で協力し、区を挙げて横のつながりを活かしたシステムでサポートセンターが機能しています。

役員の担い手が減るなか、新たな人材の発掘にもつながり、団体役員の負担も軽減できると考えます。区全体の事業を各種団体が協力して実施する形は他の地域でも見られますが、各区の実情に応じ連携を深めサポートし合えるよう、身近な地域での地区サポートセンターの再編成が望まれます。

岡谷市では様々な行政分野で21区の代表で構成する協議会などが組織されています。生涯学習の分野では、子ども育成会代表による「岡谷市子ども育成連絡協議会」や区の推進責任者による「地域子（己）育てミニ集会連絡協議会」、青少年の健全育成や環境浄化を推進する少年愛護委員による「岡谷

市少年愛護協議会」などがあります。

また、壮年会や婦人会、高齢者クラブにおいても「岡谷市連合壮年会」や「岡谷市連合婦人会」、「岡谷市高齢者クラブ連合会」が組織されています。

これら多くの協議会では、総会で決定した事業計画や予算をもとに事業を実施していますが、連絡調整にとどまらず実践で活かせる研修や先進事例を検討するなど「学びの還元や循環」を生み出し、市内全域に拡大していくことが期待されます。

さらに、異なる分野で活動する協議会が相互に連携・協力することで、より強い推進力を発揮できる相乗効果も期待できます。

**【地域の学び 提言②】行政区における各種団体活動の連携と協力**  
行政区は独自の組織であることを前提としながら、できる範囲で各種団体が連携、協力してお互いの活動を支援サポートし合うことが事業の発展的で円滑な運営と人材育成につながり地域の活性化が図られるものと考えます。

**【地域の学び 提言③】市における連絡協議会組織の充実と活性化**  
分野ごと市内各区をまとめる協議会の一層の活性化を図り、より実践的に機能するよう組織や活動の見直しを提言します。また、異なる分野の協議会同士の連携・協力を合わせて提言します。

---

## 《 第2 家庭の学び 》

家庭の学びにおいては、少子化の進展や生活や仕事の多様化などにより、家庭における子育て機能が以前に比べ減退する傾向や、世代間で継承されてきた子育てが核家族化により伝承が難しい状況となっています。

その一方で、若い父親や母親のなかには育児に悩み、将来への人生設計に不安を抱く親も増えてきています。

こうした状況を踏まえ「家庭の学び」では、「若い親の学びのサポート」と「情

報ツールの活用」の2つの提言をまとめました。

## 1 若い親の学びのサポート

岡谷市では、昭和55年より地域子（己）育てミニ集会が行われています。ミニ集会の役員は、小中学校の青少年健全育成大会や学級懇談会にも参加し地域における推進役を果たしてきました。



“こどものくに”での交流

しかし、社会情勢の変化や生活文化の多様化により、隣近所の付き合いが薄れ、ミニ集会の活動も地域による温度差がありスタッフや指導者の確保などの課題を抱えています。

また、小中学校でクラスごと地域ごとに開催する懇談会や青少年健全育成大会も出席者が年々減少し形骸化する傾向にあります。

インターネットやさまざまな相談窓口を通じて容易に子育てに関する情報が入手できる時代背景もありますが、子育てに悩む若い親に対し、必要な時に必要な場所で丁寧にフォローしサポートする必要があります。特に乳幼児期に比べ小中学校世代の親の悩みの受け皿が少なく、学校や地域で気軽に相談できる機会を設けることが必要と考えます。

### 【家庭の学び 提言①】地域子（己）育てミニ集会等の活性化

岡谷市独自の活動として評価される地域子（己）育てミニ集会の活動を時代に合った形に見直し、連絡協議会を通じて全市的に広げることが提言します。

### 【家庭の学び 提言②】学校地区懇談会・学級懇談会の活性化

小中学校で行われる懇談会は、同世代で共通の悩みをもつ親同士が集う貴重な機会として開催方法や内容を見直し、地域と学校が一体となって若い親世代を支援することを提言します。

## 2 情報ツールの活用

情報技術の進歩は日進月歩で、インターネットや携帯電話が急速に普及した昭和から平成初期には、青少年への悪影響を懸念し情報ツールの利用を制限したり子どもたちから遠避けようとする動きもありました。

しかし今日、インターネットは生活のあらゆる場面に欠かすことのできないものとなり、携帯電話もコミュニケーションツールとして老若男女、誰もが使う時代となりました。

氾濫する情報から有益なものを取捨選択して活用し、有害な情報は一定のルールやモラルのなかで排除し、青少年の健全育成に努めるなかで、誰もが利便性を享受し、今では生活に欠かせない道具となっています。

過去の歴史や経過も踏まえ、近年急速に普及しているSNS（ソーシャルネットワーキングサービス：注2）も普及途上での懸念はありますが、有害な情報や事件へのつながりを阻止する手立てに十分配慮しながら、積極的に生涯学習に活用することが期待されます。

代表的なアプリの「ライン」も、事件に関連する報道がある一方で身近なコミュニケーションツールとして有効に活用されています。学習グループやサークルの連絡、趣味や地域活動での情報交換など多彩な活用方法が考えられます。

こうした最新情報ツールには世代間のギャップも論じられてきましたが、団塊の世代をはじめ高齢者の多くが使いこなせる時代となり、生涯学び続けるための道具として活用が期待されます。

現在、学校やビジネスの現場ではタブレット端末の導入が進められ、行政の分野でも試験的な導入が図られています。個人情報制限の中で有効な情報ツールとして生涯学習での活用が望まれます。また、情報ツールの積極的な活用について、大人と子どもがともに学ぶ機会を設けることが必要と考えます。

（注2：社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービス）



日々進化する情報ツール

### 【家庭の学び 提言③】情報ツールの積極的活用

最新の情報ツールについてハード・ソフトの両面から、青少年への悪影響を排除する措置を取りながら、タブレット端末などを生涯学習の推進に積極的に活用することを提言します。そのための最新情報ツールの研修会など親子で学ぶ機会を設けることを合わせて提言します。

## 《 その他の意見 》

社会教育委員が「地域の学び」と「家庭の学び」をテーマに意見交換したなかで、以下の4項目を全般的事項として申し添えます。

### 1 カルチャーセンター・公民館の一体的推進

かつて岡谷市では、中央公民館を中心に地区公民館や分館による組織的な学習活動が盛んに行われてきました。平成15年のイルフプラザ・カルチャーセンターの開館を機に公民館活動にとらわれない幅広い学習活動が展開される一方で、統率した考えに基づく生涯学習の推進が薄らいできています。岡谷市独自の歴史や文化、地域の特色を生かした学びを推進するために、カルチャーセンターを中心とした旧市内も含めた、公民館の枠を超えた学びの再構築が必要と考えます。

そのなかで、30～50歳代の若い世代が関心を持つ時代に合った魅力的な講座や学級を開催することで、新たなグループ化を図り、高齢化が課題となっている学習グループの活性化につながるものと考えます。



湊公民館の樹音（じゅね）演奏グループ

### 2 人権教育の推進

学校教育や地域において“いじめ”は大きな課題になっています。

社会の変化とともにいじめの実態が多様化、潜在化するなかで、地域をあげての取り組みが重要になってきています。家庭での道徳教育や

しつけにより、いじめや差別の芽をつむことができるとの考えもありますが、家庭の教育力が十分に発揮できない現代においては、家庭と地域、学校と行政が一体となって人権教育に取り組む必要があります。

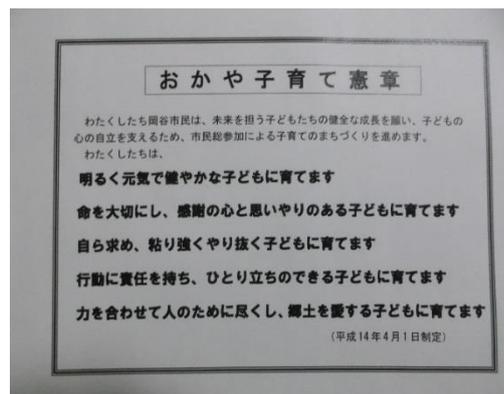
さまざまな人権講座や指導者講習会が開催されていますが、より多くの市民がいじめや差別について理解を深め行動に移すことが、生涯学習の推進にも重要だと考えます。

### 3 おかや子育て憲章の啓発と実践

岡谷市では平成14年4月に「おかや子育て憲章」を制定し、「未来を担う子どもたちの健全育成を願い、子どもの心の自立を支えるため、市民総参加による子育てのまちづくり」を宣言しています。

この憲章は、岡谷市民憲章と同様に子育てに関連する会議の冒頭で出席者全員により唱和しています。

制定から10年以上が経過しましたが、どれだけ市民に周知、普及しているのか疑問との意見が出されました。生涯学習や青少年の健全育成を推進する上でも、全ての市民が子育て憲章の5つの目標を心に留め置く必要があります。平成25年度に作成した「成長樹（期）子育て実践ポイント」の更なる活用が望まれます。



おかや子育て憲章

### 4 ボランティアの人材発掘と地域づくり

地域の学びでは、区の役員や学習グループなどで人材不足が顕著であるとの意見が出されました。「学びの還元や地域貢献」を持続的に循環させるためには、スキルやノウハウを持ちながら地域で埋もれている人材を発掘したり養成する必要があります。

また、ボランティア意識は自発的な生涯学習に欠かせない動機づけとなります。児童・生徒の学校生活や各年代の地域活動のなかで育まれるボランティア活動を支援することが重要です。



ボランティアによる読み聞かせ

～ 生涯学習の推進に向けて ～

ここに「地域の学び」と「家庭の学び」について、具体的に生涯学習を推進する方策を意見書としてまとめましたが、社会教育や生涯学習の分野は広く、ごく一部の意見にすぎません。

参考資料にまとめました委員一人ひとりの活動からの意見を、さらに議論し集約しながら、平成28年度以降の「岡谷市社会教育委員の会議」の調査研究活動を進めていきたいと考えています。

教育委員会におかれましては、本意見書を今後の生涯学習の推進の一助にお役立ていただくとともに、社会教育委員の活動に一層のご理解とご指導をいただきますようお願い申し上げます。

岡谷市社会教育委員 一同

【社会教育委員の会議のようす】



《教育委員との懇談会》



《第1回：生涯学習関連事業の説明》



《ワークショップ形式の会議》



《辰野町との交流会》



《活発な意見交換》



## 【 参考資料 】

### 1 意見検討の経過

- 5月26日（火） 第1回社会教育委員の会議（市役所）  
辞令交付、生涯学習課関連事業説明
  - 6月 3日（水） 諏訪地区社会教育委員協議会（諏訪市）
  - 6月25日（木） 南信地区社会教育委員研修会（伊那市）
  - 6月29日（月） 諏訪地区社会教育委員協議会（諏訪市）
  - 7月 7日（木） 第2回社会教育委員の会議（加チャ-センター）
  - 7月 9日（木） 諏訪上伊那地区社会教育委員の会議（南箕輪村）
  - 7月22日（水） 放課後子どもの居場所づくり事業視察  
（岡谷小・田中小）
  - 8月 4日（火） いけいけ山っ湖学級イカダ乗り（諏訪湖）
  - 8月 6日（木） 東伊豆町児童交流（塩嶺野外活動センター）
  - 8月25日（火） 地域ぐるみ子育てフォーラム（諏訪市）
  - 9月 2日（水） 第3回社会教育委員の会議（勤労青少年ホーム）  
委員同士の研修会（星野副会長）
  - 9月24日（木） 長野県社会教育研究大会（塩尻市）
  - 9月30日（水） 公開ケース研究会（諏訪湖ハイツ）
  - 10月 7日（水） 社会教育委員懇親会（市内）
  - 10月16日（金） 諏訪地区社会教育委員研修視察（伊豆の国市）
  - 11月 4日（水） 教育委員との懇談会・懇親会（市内）
  - 11月27日（金） 辰野町社会教育委員との交流会（辰野町）
- 平成28年
- 1月10日（日） 成人式（カノラホール）
  - 1月19日（火） 公民館主事会議（カルチャーセンター）
  - 2月 4日（木） 第4回社会教育委員の会議（市役所）  
委員同士の研修会（山田委員）
  - 3月 8日（火） 第5回社会教育委員の会議  
（兼）意見書の提出及び教育委員との懇談会

## 2 インターネット・スマートホンの利用実態調査

情報ツールの活用を話し合うなかで、子どもたちがどれだけインターネットやスマートフォンを使っているのか、子どもや親の意識はどうか実態を把握する必要があるとの意見がありました。

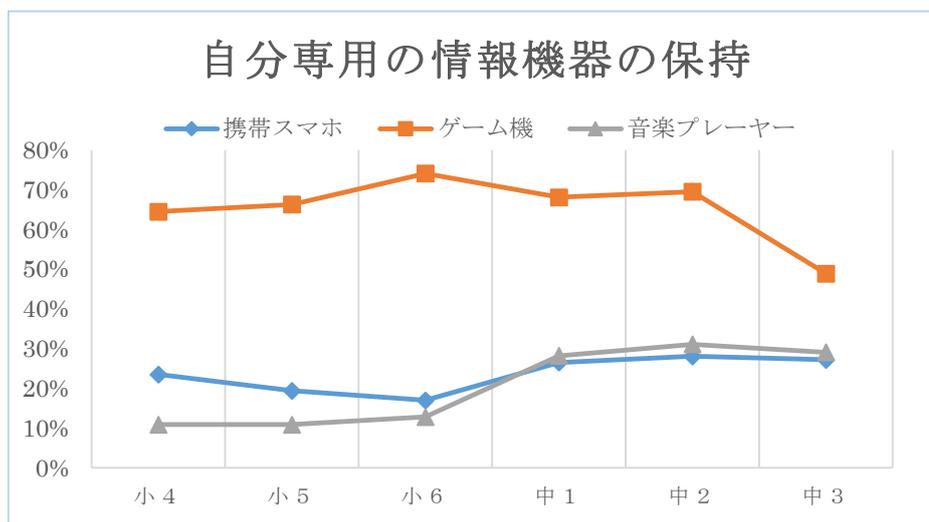
そこで、岡谷市小中学校情報教育委員会が平成27年9月にアンケート調査した以下のデータを参考としました。

### 《 児童生徒の情報機器等の所持・利用に関する調査 》

対象：小学4～6年生 1,293人、中学1～3年生 1,416人

#### 調査1：自分専用の情報機器を保持している割合（％）

学 年	携帯・スマホ	ゲーム機	音楽プレーヤー
小学4年生	23.5	64.5	10.9
小学5年生	19.4	66.3	10.9
小学6年生	17.0	74.1	12.8
中学1年生	26.5	68.1	28.2
中学2年生	28.1	69.5	31.1
中学3年生	27.2	48.9	29.1

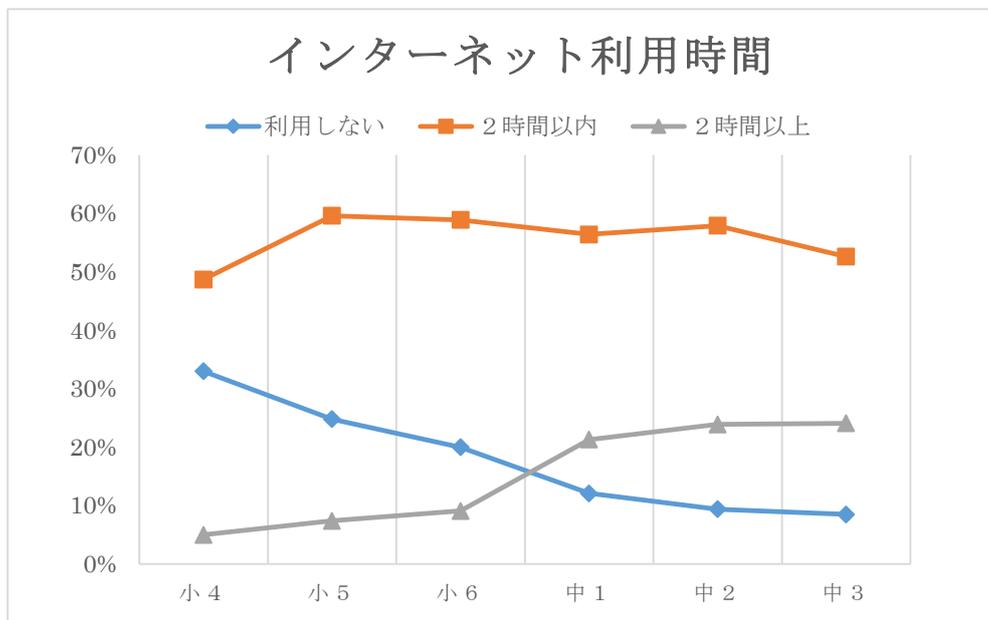


\* 携帯・スマホを持つ割合は中学1・2年で上昇し、ゲーム機は中学3年で下降します。

調査2：インターネットの1日利用時間の割合（％）

学 年	利用しない	30分以内	1時間以内	2時間以内	2時間以上
小学4年生	33.0	25.1	16.9	6.8	5.0
小学5年生	24.8	29.9	19.0	10.7	7.4
小学6年生	20.0	26.8	19.2	12.8	9.1
中学1年生	12.1	17.3	22.8	16.3	21.3
中学2年生	9.4	16.2	20.4	21.3	23.9
中学3年生	8.5	14.8	18.9	18.9	24.1

\*未回答等あり 100%にならない



\*利用しない割合が中学1年まで減少し続け、逆に2時間以上の割合は小学6年から中学1年で急増します。

### 3 委員の活動からの意見 ～ 行動する社会教育委員 ～

#### 目次

- ① 西堀区に学ぶ連携と協働（新村邦武）
- ② いけいけ山っ湖事業（星野直美）
- ③ 湊小学校における地域の学び（酒井重明）
- ④ 辰野町社会教育委員との交流会（濱道夫）
- ⑤ 川岸小学校の総合学習への参画（林邦子）
- ⑥ 諏訪地区社会教育委員研修視察（山田和男）
- ⑦ 生涯学習とスポーツ（今井誠）
- ⑧ 放課後子ども居場所づくり事業（佐々木るり子）
- ⑨ 地域子（己）育てミニ集会連絡協議会（間宮洋子）
- ⑩ 学童クラブ事業の拡大と充実（堀向弘右）

### 3-① 「西堀区に学ぶ連携と協働」 【新村邦武委員】

#### 【活動内容】

西堀区は旧市内にあり、子どもたちは西堀保育園、小井川小学校、東部中学校に通っています。西堀区では、他の行政区に先駆けて地域サポートセンターが設置されました。また、従来から育成会や壮年会、婦人会などの活動も活発に行われています。



ラムラム広場の魚つかみ大会

西堀区出身の童画家武井武雄に由来する「ラムラム広場」の活動は、今年で150回を超え多くの地域住民の協力を支えられて続けられています。

この活動は地域サポートセンターを中心に区内の各種団体が、それぞれの事業の運営に協力する体制がとられています。

この西堀地区の地域サポートセンター（区、行政主導）の仕組み及び活動展開を市内に広めていくことが出来れば望ましいことです。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～地域行事へのサポートセンターの意識（ラムラム広場を例にして）～

- それぞれの行事が互いのサポートにより成果をあげている。
- 特に高校生のボランティア参加は子供達への喜びに通ずる。
- 学校側の協力も大きく、学校昇降口には行事の掲示、協力呼びかけ。
- 事前の会打合せ時には学校の先生も参加。
- ラムラム広場役員（区三役・育成会・保護司・民生委員・社協・ミニ集会・PTA小中・指導員）



クリスマス会の様子

実績		行事名	小中・幼児	高校生	役員	先生	保護者	総勢
27.06.20	155回	ハーベキューをしよう	43人	27人	14人	2人	4人	88人
27.09.19	158回	さつまいも掘りと焼き芋会	44人	15人	12人	2人	4人	77人
27.12.19	161回	クリスマス会	64人	10人 中24人	17人	9人	4人	128人

### 3-② 「いけいけ山っ湖事業」 【星野直美副会長】

#### 【活動内容】

湊地区では、諏訪湖と西山地域に囲まれた自然豊かな環境を生かした子どもたちをたくましく育てる事業が続けられています。

豪雨災害跡地への植樹や里山整備、大カボチャや米づくりの農業体験、餅つき大会など湊地区ならではの活動の中に、手作りイカダがあります。山で伐採した木を組みペットボトルを束ねたイカダを作り、8月4日（火）に漁港から諏訪湖に漕ぎ出しました。始めは不安そうな子どもたちも元気一杯沖へ向かいました。風と波に奮闘しながら湖上の景色を楽しみました。陸に上がった子どもたちの笑顔は達成感に満ちていました。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～いけいけ山っ湖事業～

・イカダ乗りを見学させていただきました。一人だけ紅一点の近所の花笠を一緒にやっている子がいました。去年も参加していて、楽しかったので、今年も参加したとの事でした。今年は去年よりも、上手に漕げたし楽しかったと言っていました。また、来年も参加したいと笑顔が輝いていました。

・開催の支所長さんのお話によると、去年実施したバームクーヘン作りは女子児童には好評だったが男子児童には不評だった。そのため今年は、イカダにしたら、女子児童が



いけいけ山っ湖事業を視察



いけいけ山っ湖イカダ乗り

一人だけになってしまった。男女が両方参加出来る事を選ぶのは、難しいとの事でした。

・みなと村祭り、鎮守神社例大祭、太鼓まつり等見て、子供達に参加してもらうことで、父兄も集まって、村がひとつになって行くと感じます。

- ・湊はひとつになってやる「お祭り」がいくつもあります。例えば、今年の御柱祭ですが、若者の参加が徐々に減ってきています。親子3世代で積極的に参加してもらい、親から子へ歴史文化を伝えていければ良いと思います。

- ・現代、地域リーダーがいない中、本当に苦労をしています。地域で若者を育てお祭り等、伝授していくことが、今一番大切だと思います。

### 3-③ 「湊小学校における地域の学び」

【酒井重明委員】

～学校を拠点とした地域文化の伝承を湊小に学ぶ～

#### 【活動内容】

旧湊村の小坂区と花岡区で構成される湊地区は、住民同士のつながりの強い地域であり平成18年の豪雨災害でも助け合いの風土が復興を支えました。湊地区では住民同士の親睦や交流を目的に湊小学校を会場に「みなとむらまつり」が毎年開催されています。今年は8月23日（日）に各種団体や事業所が出店や催しを繰り出し賑わうなかで伝統的な互助共助の“むら”意識が継承されています。

また湊小学校では、学校行事や放課後居場所づくり事業に多くの地域住民が参加協力し、児童の健全育成と高齢者の生きがい対策にもなっています。



湊小放課後子どもの居場所づくり

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～「ふるさとを誇りに思う心」を育てる学校教育～

少子高齢化の波が岡谷市の中で一番顕著な湊地区は、岡谷市の将来を担っていると感じます。従って、湊地区がこれからも元気になり、大人も子どもも楽しく「輝いている地区」になることを目指しています。そのためには、今まで培ってきた湊の人々や伝統文化等の財産を大切にすることが重要です。それを再発見する場（生活科・総合的な学習）が「学校教育の大きな役目」と考えます。この学習を通して子どもたちは、「ふるさとを誇りに思う心」が育ち、生涯に渡って湊や岡谷市に愛着を感じることで思われます。

今湊にある行事や文化を大切に学び合うこと。子どもが核となって大人も一緒に学びが広がっていくことを願っています。



むらまつりでの交流



居場所づくり事業での版画指導

### 3-④ 「辰野町社会教育委員との交流」

【濱道夫会長】

～地域に根ざす公民館活動を先進地事例に学ぶ～

#### 【活動内容】

長野県は伝統的に社会教育や公民館活動が盛んな地域で独自の活動が県内各地で展開されています。9月24日（木）の長野県社会教育研究大会では各地の事例発表があり、隣接する辰野町から「夏休みなかよし塾」の全体発表と「子どもがふるさとを好きになり、自分の力を伸ばしながら自立できる子どもに成長すること」という分科会での発表がありました。



辰野町社会教育委員との交流

熱心に取り組む辰野町の委員さんに相談し、11月27日（金）に両市町社会教育委員による交流の場を設けました。辰野町では、社会教育委員が公民館活動に深く関わり年間の講座や学級の企画立案にも参画しているとのことでした。

岡谷市では、イルフプラザ・カルチャーセンターと3地区の公民館で講座や学級が開催されており、1月19日（火）の公民館主事会議に社会教育委員6名が参加しました。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～社会教育委員としての姿勢～

私たち社会教育委員は自ら考え、自ら行動する社会教育委員となるべく、テーマに対して調査・研究をし、一人ひとりの意見をしっかりと出しあって議論をすすめていきます。私たちがやらなければいけない事は、さまざまな関係者・機関から意見・情報を集め、岡谷に合った生涯学習の推進を考えていくことだと思えます。

市民の皆さんが生き甲斐をもち、心豊かに充実した生活を送れるように、子どものうちからの社会活動参画に始まり、大人になっての社会貢献まで、そんな学び続けることできる環境循環を整え、地域のふれあいや世代を超えた交流により、自己有用感・自尊感情・地域への愛着などをもってもらえるように活動をしていきたいと思えます。



岡谷市公民館主事会議への参加

### 3-⑤ 「川岸小学校の総合学習への参画」 【林邦子委員】

#### 【活動内容】

岡谷市では小中学校の総合学習のなかで、地域住民がさまざまな形で学校教育に関わり児童や生徒と交流を深めています。

平成27年度川岸小学校では、生き物を育て活かす学習の一環で3年1組の子供達が藍染めでハンカチを染めたいとの話がありました。

折しもコミュニティスクールの推進絡みもあり、事前に教頭先生にお諮りしたところ有難いという話もいただけたので、地域の仲間と絹工房の協力のもと藍染め体験実習をお手伝いいたしました。

ゆとり教育の見直しから教育課程において総合学習の時間が減る傾向にありますが、学校の内外における地域住民との交流は子供達にとっても、生涯学習推進の上で重要な位置づけと思われます。



川岸小学校の藍染教室

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～「岡谷市ひと・まち・しごと創生総合戦略」にとって、切り離せない先人の知恵と技の見直しと伝承について～

人の営みにとって従来当たり前だった「衣食住」。この言葉を今の子供達の間で聞くことはほとんど無いと思われます。そして家族の中で「住」「衣」は既にその技は失われて久しく「食」までも外から購入（外食、加工食品等）することに主婦の間で罪の意識さえ無くなってきています。

たまたま川岸小学校の藍染め実習のお手伝いのできたのは、子供達の「やってみたい」という気持ちで先生からの要請があったことで実現できた事例と思われます。先生との十分な打ち合わせや、事前準備、作業手順等に不行き届きや反省点はあったものの、当日は子供達が楽しく熱心に作業する様子に、ひとまずほっとしたものです。そして休み時間には他のクラスの子供達も見学してくれたり実習に参加してくれたり的一幕もありました。

昔は年中行事や人寄り、法事等は家庭や隣近所で賄い、その過程でも仲間づく

り等のコミュニケーションが否応無く培われて、色々な料理の味や暮らしの知恵、技の交換ができたものですが、今はテレビ番組くらいが入手手段かと思われ  
ます。「三人寄れば文殊の知恵」・・・地域活動をするにあたり意義ある諺かと思  
っていますが、交流の機会や人を支えあう機会が少なくなっているのが現状と思  
われます。

生きる、地域を守る、支える、豊かな地域づくり・・・この営みに、交流、教  
育、伝承が欠かせないと思います。生涯学習推進と地域文化の形成に、地域の中  
にあって公民館の機能発揮を期待したいところです。

### 3-⑥ 「諏訪地区社会教育委員連絡協議会視察研修」

【山田和男委員】

#### 【活動内容】

諏訪地方6市町村は歴史・文化的にも経済的にもつながりが強く、社会教育委員も連絡協議会を組織しお互いの研鑽に努めています。毎年県外の先進地域を視察し市町村の活動状況や社会教育委員の果たすべき役割について情報交換しています。



委員同士の研修より

平成27年度は10月16日に6市町村の30名の社会教育委員と事務局が参加し、伊豆の国市の世界遺産に登録された韮山反射炉や江川邸、沼津御用邸公園などを訪ね、歴史文化施設の活用など視察しました。それぞれに人口規模や活動内容に違いはありますが、社会教育や生涯学習の推進への思いを語り合い有意義な研修となりました。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～郷土を愛し誇りに思う生涯学習～

視察研修では、韮山反射炉や江川邸等を訪ねましたが、それぞれの施設でボランティアの方に案内・説明をしていただきました。



伊豆の国市“世界遺産”の視察

特に印象に残ったことは、施設のこと勿論ですが、ボランティアガイドの方が、いずれもその施設の歴史や文化を誇らしげに語っていたことです。

一般の観光客は、見て、聞いて、あるいは体験して感動したりするでしょうが、深く記憶に残ることはそんなに多くないと思います。それを十分承知している（と思う）にもかかわらず、熱心に説明してくださいました。

当たり前のことかも知れませんが、自分が住んでいる地域を愛しその地域の文化・歴史を勉強してこそ、自信と誇りを持って案内・説明ができるものだと思います。

自分たちの郷土の歴史・文化を学び理解することが、郷土を愛することに繋がるものであり、これが生涯学習の原点ではないかと思いました。

### 3-⑦ 「生涯学習とスポーツ」 【今井誠委員】

#### 【活動内容】

生涯にわたり学び続けることは歴史や文化、音楽などあらゆる分野に及びますが、スポーツも健康で生きがいをもって暮らすための重要な学びとなります。勝負を伴う競技スポーツのほか年代に合わせて楽しむことができる新しい種目も広がっています。



一人1スポーツを標榜する岡谷市は、スケートのまち、バレーボールのまちとして有名ですが、エースドッジボールやマレットゴルフ、最近では綱引きなども盛んに行われています。施設面でも、諏訪地方随一のテニスコートやスワンドーム、屋内外スケートリンクなど充実しています。



気軽に楽しめるニュースポーツ

多種多様なスポーツに市民が日々親しみ、世代を超えて伝統が受け継がれるなかで、若い人たちの中から全国に通用する選手が誕生し、大いに活躍されることを期待します。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】



成人式へ列席

成人式に列席させていただきました。受付を済ませ、本年成人を迎えられた皆様方を見ながら会場に向かう時、時代は違いますが「私は成人式のときに何を志したのか」と思い出してみました。

式が始まり、成人者代表の方を中心とし、協力し合っているいろいろな思いを聞かせてくれました。そのなかで“人に対する思いやり”この言葉がとても遅くまた嬉しく思いました。

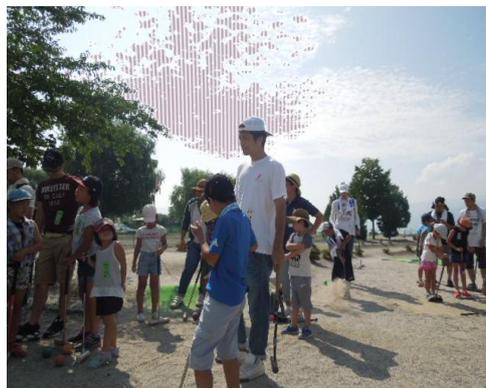
行政と市民が力を合わせ、地域行事や祭り、サークル、スポーツ活動等を通じ、大人も子どもも心豊かな暮らしのできる地域創りのお手伝いができると思っています。

### 3-③ 「放課後子どもの居場所づくり事業あかっしあ」 【佐々木るり子委員】

#### 【活動内容】

岡谷市では平成23年度から市内全8小学校で放課後子どもの居場所づくり事業が実施されています。学校区ごとに運営委員会が組織され、コーディネーターを中心に運営スタッフが週1日程度の多彩な活動を企画しています。

サッカー、フットサル、ソフトテニス、バドミントンなどのスポーツのほか、絵画、料理、将棋、囲碁などや凧あげ、しめ縄・門松づくりなどの伝統工作など学校ごと工夫を凝らした活動が展開されています。



3校合同親睦マレットゴルフ大会

今年度は岡谷小学校の統合の動きに合わせ、関係する3校の児童、保護者を対象に「マレットゴルフ&カレー会」を開催しました。このほかそれぞれの学校で行う特徴的な取り組みを他校の子どもにも楽しんでもらえるようスタッフが出向いて教室を行うなど学校の枠を越えた交流も行われています。各校のコーディネーターが日頃から情報交換を行い、活動内容を共有することで、子どもたちに魅力あるメニューを用意できるように努めています。

学年を超えた児童や地域住民とのふれ合いは子どもたちを大きく成長させています。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

生涯学習は、人が健康で心豊かに生活をするために、とても大切なことだと思います。学ぶことは各世代によって内容も形も違ってはいるでしょうが、学習するためには、いろいろな年代の多くの人の支えや助けが必要となります。



岡谷市民一人ひとりが、家族や地域の人との関わり、助け合い、支え合い、学習や交流の輪を広げていかれるようお願い、その手助けができればと思っています。

### 3-⑨ 「地域子（己）育てミニ集会連絡協議会」

【間宮洋子委員】

#### 【活動内容】

岡谷市独自の子育て支援活動として、昭和55年から続けられる「子（己）育てミニ集会事業」があります。隣近所の若い母親が井戸端会議のように集まり育児の悩みを相談し合い、子どもと共に己自身も育っていこうとする活動です。



連絡協議会の臨時総会

市内21区で40年以上続けていますが、地域による温度差もあり各区推進委員による連絡協議会も形骸化しているとの意見も聞かれます。そこで、ミニ集会や協議会のあり方を原点に帰って検討する会議が平成27年度6回にわたって開かれました。検討委員会ではミニ集会の継続と協議会の組織変更、役員選出方法の見直しなどが協議され、総会の議決を経て平成28年度より新たなスタートを切ることとなりました。

若い父親母親の悩みを身近な地域で解決し、「地域の子どもを地域で育てる」支援活動の発展が期待されます。

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～地域子（己）育てミニ集会と共に～

地域子（己）育てミニ集会は、子育て中の親（親子）を支援し、親同士の交流や親子のふれあいの場の充実を図り、安心して子育てができる子育て土壌作りをめざして、それぞれの地域で地区の実情にあわせた活動をしています。

連絡協議会では、「肩の力を抜いてできる時にできる人ができることを」と掲げ、情報交換会などを通してミニ集会推進責任者同士が楽しく交流できる場、また地区を越えてつながりが持てる場となるよう取り組んできました。

しかし、地区によって活動に温度差があり、地域での認知度・役員不足など時代と共にさまざまな問題を抱え協議会が低迷してしまいました。

協議会・ミニ集会を見直す、「在り方検討委員会」では、大変苦しい思いもしましたが、委員同士の率直な意見のぶつかりあいは、協議会、そして、ミニ集会への熱い想いの表れであることを再認識でき、有意義な時間であったと思います。

「地域子(己)育てミニ集会連絡協議会」は、30年の歴史に一つのピリオドを打ち、「地域子(己)育てサポーター連絡協議会」と名称を変え、更なる発展をめざし、次年度からスタートします。

子育て土壌作り、そして、子育てをサポートしていくうえで協議会において他地区の人とのつながりを深める意識が今後ますます大切になってきます。

また、地区の子育てサポーター、連絡協議会が事業を推進し、目的を達成するためには、区と学校・行政の理解と協力が欠かせません。

それぞれの地区・学校における位置づけ、活動内容や役割などが共通認識のもと、サポーターがより活動しやすいものとなるよう行政のバックアップを併せてお願いします。



白熱した在り方検討の議論

「大人が子育てに夢と希望をもち、子どもたちの育つ環境を整え、協力し合いながらお互いに支え合う市民総参加のまちづくり」を推進するため、「おかや子育て憲章」が制定されていますが、まず、大人が地域を愛し、夢と希望をもてる社会でなければなりません。

生涯を通じ学ぶことで一人ひとりが豊かな心を育み、お互いに支えあい、助けあい、人と人がつながることができる「地域力」や「社会力」を育てていくためにも生涯学習の果たす役割は、とても大きいと思います。

### 3-10 「学童クラブの拡大・充実」 【堀向弘右委員】

#### 【活動内容】

岡谷市の学童クラブは、昭和41年に始まり岡谷の産業を支える女性の就労支援に大きな役割を果たしてきました。国の学童保育拡大方針に沿い、岡谷市でも平成27年度より対象学年を従来の3年生から6年生まで拡大するとともに、利用時間も早朝と夕方を15分ずつ延長し充実が図られました。

また、岡谷小学校の統合に伴い、統合先の岡谷田中小学にクラブ室を増設し新クラブ棟が造られました。

さらに岡谷市では、全てのクラブが学校敷地内に開設され放課後子どもの居場所づくり事業との連携が図られています。国では両事業の一体的推進を掲げており、岡谷市では先取りする形で学校とクラブ指導員が協力して運営にあっています。



学童クラブの様子



新築された岡谷田中小学校クラブ

#### 【生涯学習の取り組み・思い】

～家庭教育力の向上～

学童クラブが整備・充実され利用しやすくなり、長時間預ける環境が整う一方で、子どもが家庭にいる時間の減少、すなわち「家庭教育の時間」が減少することのないよう努めなければいけないと考えます。

人格形成の基盤となる家庭での教育の重要性に鑑みて

- 1・地域子(己)育て・・・集会
- 2・輝く子育て支援学級
- 3・行政区の各程行事への参加 等

の促進、PRを十分に行い、教育関係の諸会議に於いて議論を深め、一步一步前へ進めることが重要だと考えます。



#### 4 岡谷市社会教育委員名簿

平成28年3月

氏名	区分	就任(期)	備考
新村 邦武	学識経験者	H23(3)	元区長、 西堀区、小井川小学校
堀向 弘右	学識経験者	H23(3)	元市職員、 東堀区、長地小学校
濱 道夫	社会教育	H23(3)	区団体役員、シルク専門店経営、蚕糸 学識、下浜区、田中小学校
星野 直美	家庭教育	H23(3)	子ども会育成会役員 小坂区、湊小学校
今井 誠	家庭教育	H25(2)	元PTA役員 今井区、上の原小学校
間宮 洋子	家庭教育	H27(1)	子(己)育てミニ集会役員、子ども会育成 会役員、今井区、神明小学校
佐々木るり子	社会教育	H27(1)	ガールスカウト役員、 下浜区、岡谷小学校
山田 和男	社会教育	H27(1)	卓球協会役員、主任児童委員 横川区、上の原小学校
林 邦子	家庭教育	H27(1)	放課後子どもの居場所づくり事業運営委 員、三沢区、川岸小学校
酒井 重明	学校教育	H27(1)	湊小学校長(校長会代表) 湊地区、湊小学校